

「プログラミング入門 CASL II」正誤表

本書には下記のような誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

2016.12.27

箇所	誤	正
p. 39 図2. 2	アドレス FFFF ₁₆ (下から2行目)	FFFE ₁₆
p. 48 図2. 6	図のタイトル PRG0202のコピー手順	PRG0203のコピー手順
p. 55 表2. 8	・第1刷～第3刷 ストア命令の説明 $r \leftarrow (adr), r \leftarrow (adr + (x))$	$adr \leftarrow (r), adr + (x) \leftarrow (r)$
	・第4刷～第9刷 ストア命令の説明 $(adr) \leftarrow r, (adr + (x)) \leftarrow r$	
p. 64 プログラムPRG0301の17, 18, 19行目	SUBA	SUBL
p. 65 [6行目]の説明	命令コード SRL	ADDL
p. 66 図3. 2	(b)の命令 LAD	LD
p. 68 図3. 3	主記憶の3つ目 2000	3000
p. 68 下から3行目と5行目	ADDA	ADDL
p. 72 図3. 5	表の5行目 1111 1111 1111 0101	1111 1111 1111 0110
p. 74 図3. 7	この下位16ビット0000 ₁₆ をGR4に設定	この下位16ビット0000 ₁₆ をGR2に設定
p. 76 下から4行目	値を符号なし数値とみなして	値を符号つき数値とみなして
p. 87 18行目	【6－8行目】の説明 13702(358G ₁₆)が…	【6－8行目】の説明 13702(3586 ₁₆)が…
p. 101 下から13行目と14行目	$= 10 \times 40 \cdots = 10 \times 80$	$= 10 \times 4 \cdots = 10 \times 8$
p. 109 実行のようすPRG0401	(l) 16行目実行後 SF, ZFの網掛け	FRの値は変化しないので、網掛けは不要
p. 111 表4. 1	SUBLのオペランド r1, r2	r1, r2
p. 112 最後の行	汎用レジスタやメモリは読み書きしない。	汎用レジスタやメモリの内容は変化しない。
p. 114 上から3行目	CPL命令(算術比較命令)	CPL命令(論理比較命令)
p. 114 表4. 3	算術計算	算術比較
p. 114 表4. 3	CPLのオペランド r, zdr[, x]	r, adr[, x]
p. 119 表4. 4	右の表中の JNE	JZE
p. 120 プログラムPRG0403	22: LEN DC	22: LEN DS
p. 123 実行のようすPRG0404	(c) 9行目の実行前	(c) 9行目の実行後
p. 126 図4. 11右上	－1と比較した場合(図4.9(b))	－1と比較した場合(図4.10(b))
p. 133 図5. 3	LOOPの前の処理 GR2初期化	削除
(同上)	条件判定 GR1の値>0	GR1の値≠0
p. 138 実行のようすPRG0503	(j)～(m)行目のGR1の指すメモリ	'A'
p. 141 下から5行目	ORGLLENは28行目で、文字列の長さ12として定義される	ORGLLENは29行目で、文字列の長さ11として定義される
p. 142 図5. 9の下の方の1行目と2行目	そして、22行目で、～23行目	そして、23行目で、～24行目～
p. 157 図6. 4	PRの値 000D	000E
p. 159 プログラムPRG0602	10: CALL DISP	10: CALL DISP1
p. 173 11行目	Abcdef	abcdef
p. 177、178 実行の様子PRG0605	(h) 1回目の14行目実行後	(h) 2回目の14行目実行後
	(i) 1回目の14行目実行後	(i) 3回目の14行目実行後
	(j) 1回目の14行目実行後	(j) 4回目の14行目実行後
	(k) 1回目の14行目実行後	(k) 5回目の14行目実行後
p. 181 下から5行目	EF FE ₁₆	EF FF ₁₆
p. 201 上から3つめの処理	3016	30 ₁₆
p. 209 上から1行目	Java sbatで実行する。	Java s.batを実行する。
p. 209 上から6行目	Java CASL II <ファイル名>	Java CASL2 <ファイル名>

実教出版株式会社